

沖縄県

第16回島しょ観光政策フォーラム



沖縄県知事公室交流推進課 志良堂 真由美

島しょ観光政策フォーラムとは

島しょ観光政策フォーラム（Inter-Islands Tourism Policy Forum、通称ITOPフォーラム）は、島しょ地域の知事・省長が一堂に会し、観光を中心とした相互協力、共通課題の解決方策や協力可能な施策などについて協議し、相互協力の推進とフォーラム構成地域の発展を目的とする国際会議です。1997年に韓国の済州島で第1回が行われ、沖縄、済州、海南、バリの4地域が参加しました。

設立のきっかけとなったのは、1996年に沖縄県と済州が相互交流と島しょ観光を強化するために行ったジョイントプランの討議でした。このとき、インドネシアのバリと中国の海南も、済州と観光分野の政策において協力関係の必要性を論議していたことから、4地域が設立主体となりフォーラムを開催しようということとなりました。1997年から4地域の持ち回りで、原則として毎年フォーラムを開催しています。

第16回を沖縄で開催

第16回のITOPフォーラムは、2012年11月6日から11月8日まで、沖縄県那覇市において開催しました。沖縄での開催は今回で4回目となります。当初4地域であった加盟地域は、現在、ハワイなどの加盟もあり10地域に増えており、今回の沖縄でのフォーラムには、済州をはじめ海南、バリ、

スリランカ南部州、プーケット、沖縄の6地域に加え、オブザーバーとして大洋州諸国からパラオ、バヌアツ、サモアの3地域が初めて参加しました。

今回のテーマは、「島しょ観光地域における自然災害等に対する危機管理」としました。これは、2011年3月に発生した東日本大震災により、わが国の観光に大きな影響が生じたことを踏まえたものです。観光が大きな産業となる地域においては、地震や津波を含む大規模災害に関する観光危機管理の必要性が再認識されています。そして今後、フォーラム参加地域が持続的な観光振興を図るうえで、安全・安心な観光地であることが、これまで以上に重要な要素となっていくものと考えたためです。

3日間のフォーラムでは、実務代表者会議に始まり、知事・省長によるテーマプレゼンテーション、シンポジウム、知事・省長会議のほか、歓迎レセプションや県内視察を行いました。



世界遺産首里城での地域代表者達

危機管理への取り組みや課題を共有

7日午前のテーマプレゼンテーションは、各地域の共通課題と考えられる大規模災害時における

観光危機管理について、参加地域の取り組みなどを共有し、各地域における課題の解決に資することを目的としました。沖縄県からは、上原良幸副知事（当時）が、「安全安心な観光地 沖縄をめざして」というテーマで、地域防災計画やモデル事業などの取り組みを発表しました。

午後のシンポジウムは、前半に、PATA（Pacific Asia Tourism Association）の観光危機管理タスクフォース座長であるパート・ヴァン・ウォルビーク氏による基調講演が行われました。ウォルビーク氏からは、PATA緊急対応タスクフォースで積み重ねた実体験に基づき、4R（Reduction、Readiness、Response、Recovery）に従ってさまざまな事例を紹介していただくとともに、島しょ観光政策フォーラムメンバーが有機的に機能するための提案などについてお話いただきました。

シンポジウムの後半では、各地域の大学教授や観光協会関係者、自治体関係者をパネリストに迎え、基調講演でウォルビーク氏に解説していただいた「4R」の概念に該当する各地域の取り組みを紹介し、島しょ観光地に共通する課題や各地域固有の課題などについて、参加者が共有する機会としました。課題解決に向けたヒントを得るため、ウォルビーク氏から各パネリストの発表に対し適切なアドバイスや意見をいただきました。

6日の実務代表者会議と7日の知事・省長会議では、共同声明に盛り込む「危機」の定義や、今後の危機発生時における加盟地域間の協力体制の方策などについて活発な議論が行われました。また、クレアの高橋政司多文化共生部長より、東日本大震災後の外国人観光客を含めた国内の外国籍者に対する取り組みや支援などについて説明をいただきました。

知事・省長会議終了後は、各地域代表者による共同声明の調印式を行い、記者会見の場で「災害時、被害が生じた加盟地



共同声明の調印式後の記者会見

域に対し、連携して復興支援をとる」という発表を行いました。沖縄県代表の上原副知事（当時）は、「昨年、東日本大震災があった国内において、有数の観光地である沖縄から危機管理への取り組みが発信できたことは評価できる」と強調しました。

「観光危機管理ツアー」を実施

今回のフォーラムでは、会議のほかにも、テーマに即した「観光危機管理ツアー」を実施し、リゾートホテル敷地内の危機管理関連施設の視



ホテルの従業員とシミュレーションを行う参加者

察や、災害発生時に、海上・ビーチにいる人に対してどのような避難誘導を行うのか、各地域のツアー参加者も交えシミュレーションを行いました。

また、世界最大級の美ら海水族館や酒造所、沖縄科学技術大学院大学の視察、世界遺産である首里城敷地内での歓迎レセプションなどを催し、県内の観光地や学術、文化、伝統を体験していただきました。

参加地域の相互交流と連携を期待

3日間に渡ったITOPフォーラムでは、加盟地域間の災害時における協力・支援やネットワークの強化のほか、さまざまな意見交換が行われましたが、仲井眞知事は初日の歓迎レセプションで「参加地域のさまざまな相互交流と今後の連携が強まることを期待したい」と述べました。それこそがITOPフォーラムの最も重要な目的であり、今回のフォーラムでは、さらに各地域のネットワークが強化され、プログラムは大成功に終わったと思います。今後も沖縄県は、ITOPフォーラムの一員として各地域の発展のために寄与していきたいと考えています。



歓迎レセプションの記念撮影